

ディスレクシア

国立成育医療研究センターこころの診療部統括部長

小 枝 達 也

(聞き手 池田志孝)

5歳の子どもがディスレクシアと診断されました。以下の点で最近の進歩があればご教示ください。

1. 音声ガイダンスなどが使用されているようですが、繰り返し教えることで識字など可能になるのかどうか。
2. 海外の著名人にもディスレクシアの方がいますが、その子の優れた点をどうやって見いだせるのでしょうか。
3. 脳の利用部位の差によるとされていますが、レーザーなど、何か治療に役立つものはあるのでしょうか。

<宮城県勤務医>

池田 この5歳というのはディスレクシアの診断は可能なのでしょうか。

小枝 5歳のお子さんでは、なかなか現時点で診断は難しく、小学校1年生以上でないと難しいかと思います。これはおそらくディスレクシアの疑いがあるといわれたということではないかと思います。

池田 診断のできる年齢というのは何歳からなのでしょうか。

小枝 ディスレクシアには、文字を読むことを測定する必要があり、そのためのひらがなの音読検査というもの

ができています。これは厚生労働省で認められ保険収載されている唯一の検査で、小学校1年生から6年生までを対象とした検査となっています。

池田 では小学校に入る前、あるいは小学校を卒業してしまうと基準がないということですか。

小枝 そうですね。小学校に入る前はディスレクシアと確定的な診断をするのは現時点では無理だろうと思います。中学生以上の場合、私は小学校6年生として考えたときに基準に該当するかどうかを考えるようにしています。

池田 基準が必要ということは、重症度というのがあるのでしょうか。

小枝 当然重いお子さんほど早く見つかってきますし、軽いお子さんは小学校の低学年のうちには気づかれずに、高学年になってからいらっしやることもあります。

池田 症状の重さは違うのですね。

小枝 重い子もいれば、軽い子もいるということです。

池田 質問に音声ガイダンスなどが使われていると書いてあるのですが、ディスレクシアの治療といいますか、どのような対処方法があるのでしょうか。

小枝 音声ガイダンスというのは、少し私も調べたのですが、該当するものが見つかりませんでした。少し広めに考えますと、学校、あるいは家庭で使えるように、無料で配信されているデージー教科書のことかと思います。このデージー教科書というのは、その子の在籍する学校の教科書をダウンロードして、パソコンなどが読み上げてくれるのです。それを聞いて、お子さんが読むことなく知識が身につくという、学習の補助として役立つものかと思います。

池田 デージー教科書というのは、コンピューターの画面を見て、そこに教科書があって、読み上げソフトがそこを読んでいく、そういうことですね。

小枝 そうです。ちょうどデージー

教科書が音声を出すところだけハイライトで色が変わって、ここを読んでいるというのがわかるようになっていきます。

池田 そこを目で追いながら、耳でソフトからの音が入ってくる。実際に読めるようになっているのでしょうか。

小枝 実際に目で追いながら読み上げるのを聞けば効果があるのかもしれませんが、読むのが苦手なお子さんたちですので、デージー教科書のところを見ながら、どちらかという目と耳で聞いて理解しようと思います。読む訓練とはちょっと違うのではないかと僕は思っています。

池田 内容は理解できているけれども、実際、読むことがあまりできていない可能性もあるのですね。

小枝 内容理解には非常に役に立ちますが、デージー教科書を使っているとすらすら読めるようになるかという、そういうものではないかと私は思っています。

池田 そういったことが起こった場合、何かほかに実際に読めるようになるような方法はあるのでしょうか。

小枝 文としていきなり読ませようとすると難しいので、一文字、一文字が楽に早く読めるような練習をされるといいと考えています。私はそのための方法を開発して、タブレットPCやスマートフォンで利用できる音読指導アプリを提供しています。

池田 長い内容に関してはデジター教科書で、短い一つのセンテンスはそういったもので補充していくということですね。

小枝 読むスキルを上げようと思えば、私どもが提供しているアプリで練習していただくとよいかと思いますが、教科書などで知識が遅れないようにしなければいけないといった場合には、このデジター教科書を併用するといったかと思っています。

池田 どのくらいの割合の方がこれで読み能力が上がるのでしょうか。

小枝 私は成育医療研究センターでディスレクシア外来というものを開設していますが、そこに来る方の9割ぐらいは私どものアプリで読むことが上手になっていきます。

池田 1割の方は残ってしまいますね。そのような方はどうされるのですか。

小枝 1割の方にはとても症状が重く、アプリでも歯が立たないくらいの方がいるのですが、そういった方にはこのアプリを開発する元の方法、原法というものがあります。その方法を使うと、時間はかかりますが、それなりに読めるようになっていきます。

池田 その原法というのはソフトにはなっていないのですか。

小枝 アプリは家庭で家族がやっても上手になるのですが、原法は学校の先生や、スピーチセラピストのような

方に時間を取って丁寧にご指導いただく必要があると思います。

池田 その分だけ時間と人の手間がかかるのですね。でも、1割でしたら、まあよいかと思いますが。

小枝 そう思います。

池田 質問にもありますが、ディスレクシアの方の中には素晴らしい才能がある方もいて、それをどうやって見いだすのかという話ですが。

小枝 ディスレクシアのお子さんは、読むのが苦手なかわりにとってはなんですが、ものづくりであったり、デザインであったり、あるいはスポーツなどで優れた才能を示される方もいますので、いろいろさせてみて、すぐ上手になるものをその子の得意なものとしてさせてみるのが、一つの手ではないかと思っています。

池田 優れた点と、読みにくいという欠点とあるのですが、どちらをどのくらい伸ばしていく感じなのですか。

小枝 ディスレクシアのお子さんたちは読むのが本当に嫌いで苦手なので、それを頑張れというのですから、そちらはせいぜい1ぐらいいしておいて、その子が好きで得意で上手になるものを9ぐらい応援する。9対1でやるぐらいが家庭でみんなが穏やかに暮らすには一番いいかと思っています。

池田 できるものを伸ばしたほうが本人も気持ちがいいかと思っていますね。

小枝 そう思います。

池田 それと、3つ目の質問で、脳の部位の差があるのではというのですが、ディスレクシアは発症機序などわかっているのでしょうか。

小枝 読む際に脳が働く場所がだいたいわかっている、特にディスレクシアのお子さんは左側の脳の頭頂側頭部と後頭葉の紡錘状回の働きが悪いことが報告されています。

池田 ということは、そこの神経細胞の機能が違っているのでしょうか。

小枝 はい。

池田 これは遺伝はあるのでしょうか。

小枝 ディスレクシアは単発例も多いのですが、非常に人数が多いとされている欧米では常染色体の優性遺伝が疑われています。

池田 ある分子の異常があって、それが常染色体優性の遺伝をしていくということですね。

小枝 はい。

池田 もう遺伝子はわかっているのでしょうか。

小枝 候補遺伝子は4つぐらい見つかっていますが、確定的にこれだといったものはまだ詰め切れていないようです。

池田 レーザーなどを使って治療できないかということですが、実際には、よくうつ病等で電磁的な治療をされていますね。ディスレクシアでは同じようにやっているのでしょうか。

小枝 私が調べた限りではそういう物理的な方法による治療は難しく、むしろ1個1個の文字を繰り返して読む練習のような合理的で、確認された方法で繰り返していくと、反応が悪かった左側の頭頂側頭部や紡錘状回の反応がよくなるという研究報告も出ています。やはり合理的な方法で繰り返し練習することが今のところの一番いい方法ではないかと思います。

池田 なかなか合理的な方法というのが難しいと思うのですが、よく学校の先生がご自分で本を読んで聞かせて、そのお子さんがまた同じように言えるということをおっしゃいます。これは合理的なのでしょうか。

小枝 それは単に先生が読んでくれたものを耳で聞いて繰り返しているだけです。読むというトレーニングには全くならないのです。ですから、そういう指導ではなくて、読めない一文字ずつを繰り返し自分の力で読めるようにする。そういう練習が一番もとになるだろうと思います。

池田 イメージとしては、何か一文字書いてあるものを、読んでごらんというかたちでご本人に読ませる。

小枝 そうです。

池田 そして合っていると、「ああ、いいね」といって次に移る。

小枝 それで、時間をかけて読める、ではダメで、早く楽に読めるようになることが指導のポイントなのです。ぱ

っと出て、ぱっと読める。この自動化こそが実は読みを楽にする一つのポイントなのです。

池田 なるほど。それができない子が、できるようになった前後で、例えばファンクショナルMRIのようなものをやると、この3つの脳部位の機能が変わってくるのですか。

小枝 そうです。2004年にアメリカのエール大学のシェイビッツ先生がそういった研究レポートを出しています。

池田 構造はわからないけれども、トレーニングによって、機能的な脳の働きが変わってくるということですね。

小枝 機能的には子どもの脳は回復してくると思います。

池田 できたら小学校1年生ぐらいで診断するよりも、早ければ早いほうがいいのでしょうか。

小枝 小学校1年生でも決して遅くないですし、見つかった段階ですぐ1個1個の文字を楽に読めるように練習を繰り返すこと、これがまず基本だと思います。

池田 そういう意味でも、このディスレクシアという疾患をもっと啓発して広げていって、そういったお子さんをなるべく早くみんなで見つけるということですね。

小枝 そうですね。

池田 どうもありがとうございます。